

## 編集後記

本号も厳正な審査を合格した査読論文をはじめ、特集論文や研究論文などへご投稿いただき、そして多く方の玉稿を多数掲載できたことを嬉しく思います。心より御礼を申し上げます。

ご存じの通り、大学の役割は多様化しており、大学教員が活躍する範囲はますます拡大しています。それにもなつて大学教員は、地域貢献や社会貢献などの期待を社会から引き受け、その社会の要請に応えるため、大学外の舞台でも活躍しています。そうはいつても、私たち大学教員の第一義的な使命は研究と教育です。ともすれば、最近の風潮から一にも二にも教育と、各方面で声高らかに宣言がされており、実学重視、即戦力養成というハヤリに流され、研究は二の次で良いという雰囲気は大学環境を支配しています。しかし、教育とは「教育育む」ものであります。その「教え」る物は教養であり、「育む」物は知性です。そして、私たちが教養と知性を教授するために、日々、研究という活動を精力的におこなっているわけであり、この順序を忘れてはならないと日々感じております。重ねてとなりますが、このような状況にあるなか、研究の結晶である研究論文を本号に投稿して頂きました先生方に御礼を申し上げるとともに、心からの敬意を表します。

さて、今年度をもって、国際経営研究所の設立時から在職された事務局の川崎和佳子さんが退職されます。私は年齢が比較的若いからなのか投票により経営学部経営学会や研究所などの運営委員になることがとても多く、くわえて私の研究室が国際経営研究所の目の前であることもあり、川崎さんには大変お世話になりました。私が本学に着任した当初は、私の思慮の浅さからくる言動を川崎さんに諭して頂いたことも幾度となくありました。いろいろな出来事を思い出してこの原稿を書いていると、こみ上げてくるものがあります。幾度となく助けてもらい、話し相手になっていただき、どれだけ心に余裕を持てるようになって研究教育活動に向かえたか少しもありません。機会があるごとに感謝の気持ちを表したいと申し出ても、頑なに「やめてください」と言われてきました。しかし、川崎さんはもうお忘れになっていると思いますが、最後の最後に、こうしてお名前を出すことを了解して頂いておりました。その最後の言葉をいえる機会に、国際経営フォーラムの編集委員長であったことを大変嬉しく思っております。

全所員を代表して長年の本研究所へのご尽力と貢献に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(編集担当：小島大徳)